

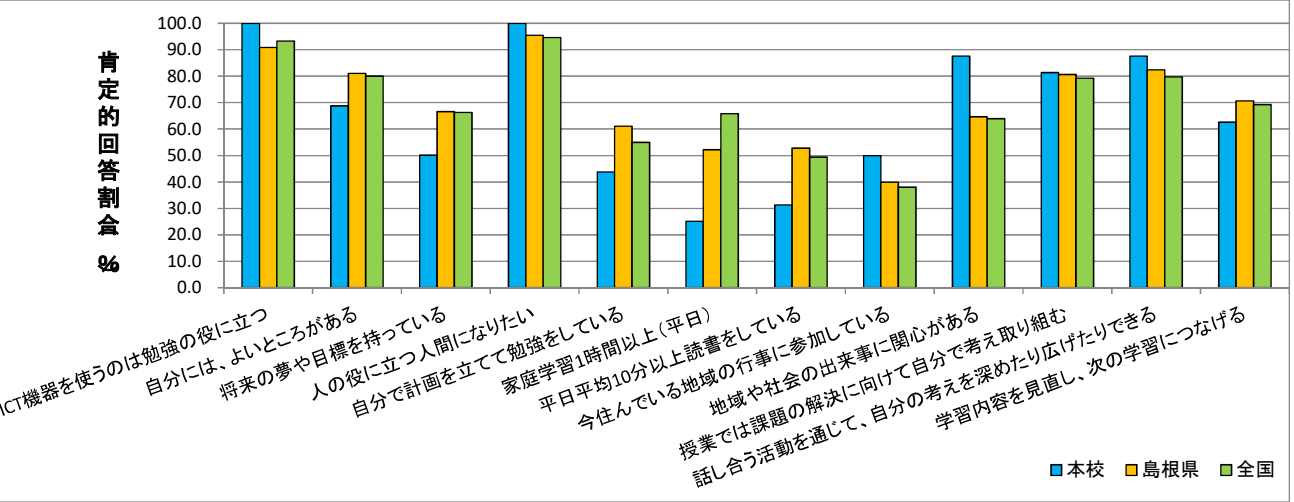
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○情報と情報との関係について理解し、話の内容から自分の考えを効果的にまとめることについてよくできている。 ●漢字の書き取り、語句の使い方、文章を読んで分析し自分の考えをまとめることについて課題がある。	・漢字の書き取りや語句の意味、使い方について理解を深め、語彙を増やすため、辞書を引くことを習慣づけたり、ペアでの言語活動を取り入れたり、タブレットドリルを活用したりしていく。 ・文章を読む力をつけるため、読書の楽しさ、大切さに触れ、日常的に様々な文章を読む機会を増やす。
数学	○基本的な計算問題等の平均正答率が高い。また、データを活用したり事象を数学的に解釈したりして、根拠を示して説明する問題の正答率も高かった。 ●図形の問題や証明問題の正答率が低く、無回答率も高かった。	・書く力、説明する力が向上するように、授業の中でグループ活動等を活用し、説明する場面を意図的に作っていく。その際、生徒の習熟度に配慮した課題にする等、工夫をする。 ・難しい問題を、すぐに諦めてしまわないように、ヒント等を出しながら取り組みせ、自分で解けた経験を増やしていく。
英語	○英語の内容を理解する問いの正答率は県の平均正答率を上回っている。 ○メールやポスターに書かれている英文の概要を読みとる問いの平均正答率が高い。 ●状況に応じた文や自分の考えを書く問題では無回答が多い。	・語彙量を増やすこと、文法理解等の基礎、基本の徹底を図る。 ・場面や状況に応じた書く活動を授業で多く取り入れ、継続的な指導を行う。 ・ペア・グループ活動での会話練習を取り入れ、意欲的に話そうとする姿勢や力を養う。

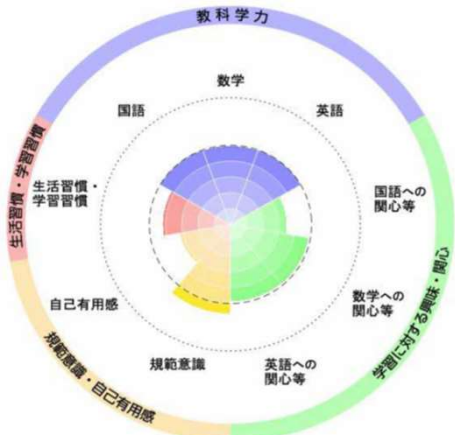
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○クラスメイトとの関わりの中で、自分の考えを深めたり、広げたりできる生徒が9割近い。 ●ほとんどの生徒がタブレットが役立つと思っているが、授業以外で学習に使用する時間が30分より少ない生徒が9割以上いる。 ●家庭学習1時間未満の割合は平日75%、土日81%。	・生徒たちはタブレットの使用には意欲を示しているため、家庭とも連携しながら、家庭学習でのタブレットの活用法を確立していく。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「自分の意見や考えを表現する力」の育成のために、生徒の実態を踏まえ、教科ごとに目指す生徒の姿や何に力を入れて授業を行うのかを意識し、日々の授業作りや授業改善に努める。その際タブレット等のICT教材を効果的に活用する工夫に努める。
・自学を充実させるために、タブレットドリルを効果的に活用し、家庭と連携をとって家庭学習の充実を図るよう指導や声がけを行う。
・朝学習では全員が読書に取り組める環境づくりを進める。

【受検者数】

16 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。